

勢山文書 ⑮ 「おさしづ」の写し翻刻

天理教一広分教会長
安井 幹夫 Mikio Yasui

(マ) 全廿四年七月七日 愛知郡北坂村 第貳百四十八號 講脇 芳松 三十四年

さあへ 身上一条尋るからさとすのにハ 身上一条里を聞わけるなら 何かの事もわかるであるふ 人にもさとしているやろう 聞てもいるやろふ さあさあわからんやあろうまい 神の皆子供 なんぎさそ ふじゆうさそといふ親ハあろうまい 身の内神のかしものかりもののをさとするにハ 心ハ我もの心通り神がはたらく 此里よく聞わけ 前生」(16オ)

いんねんわかうまい わからんから尋るへ 事情世上にハ 皆どんな物もうつして有 此里を聞訳 人間生れかわりかわり 此里を聞訳よ さあへ 身上よほどたいそふである どうせにやいかん こうせにやと八神ハゆわん 内々家も此里を聞訳よ 身上のふてハたのしみあろうまい 見んらん前生いんねん ふんばらにやなろうまい たすからにやなろふまい 人を助ケるといふ心がなけりやならんが天の里 此里を聞わけるなら 助ケるも天の里 たすかるも天の里 是だけ尽すのに なんでもふと思ふ心をもたずして 内々誠の心がむつかしいといふ 此里」(16ウ)

をさとしておく 身上今一時どうでもない 身上あんじるとあなじの里がまわる さあへ 内々むつまじいが第一といふ

(注)『補遺』に、明治24年7月7日 出口由松34才身上伺(斯道会第二百四十八号講脇)。住所からすると近愛分。

(ミ) 全廿四年拾月拾九日 第百五拾九号 久保忠治

さあへ 尋る事情の処 はこぶ尽すや一ツの理 身上一ツの理事情心得 不自由でならん よくへ の事情聞取はこぶ 尽すといふ 名々一ツの心に納め 他に一ツの事情 一ツの里うけとらななろうまい 他に一ツの事情 世界も一ツの事情 よふ聞訳 他に一ツ世界の事情ハ間まで 身の内かりもの 一時一ツの事情」(17オ)

さとしおく 世界間まで事情あるふまい 名々心におさめて見よ

(注)『補遺』に、明治24年10月19日 久保忠治身上伺。

(ム) 全廿四年十一月廿九日 瀬戸新七小人二付御願

さあへ 身上の処 尋る事情 一時の処でハ何かの処わかるまい 身の内不足どうであろう 道々どう思ふ処 内々わかるまい わからんければよふ聞訳で事情さとれ 一時の処になりて どうとさらへもたず 一寸ハむつかしかろ なれど何もむつかしい事ハない 身の内かわらん心だいを聞訳 めんへ なす事ならんハよふ聞訳 あざやかならにやならん」(17ウ)

よふ聞わけ ならんやない なれどならんといふハ あとやさきや なんとる里 さらへもたず いんねん事情さとす里から 内々あらためバならん事あるふまい よふ聞訳るよう 是一ツさとしおく

(注)『補遺』に、明治24年11月29日 瀬戸新七倅吉藏身上願。瀬戸新七は近愛役員。布教に歩く。

(メ) 全廿五年三月八日 柏木六左衛門 井戸にござり二付御願 (18オ～19ウ、本文略)

ただし、『補遺』に、明治25年3月8日 柏木六左衛門51才願があり、内容はほぼ同じ。また、明治22年4月5日(陰暦3月6日、補遺)に柏木六左衛門48才十日前より目九分悪い井戸濁るに付伺(斯道会第三十八号周旋方)があるが…。

(モ) 全廿五年九月廿九日 山田太右衛門 三拾九年(略)

『補遺』に、明治25年9月29日 山田太右衛門39才身上願。

(ヤ) 全廿五年拾月四日」(19オ)

宇田村之事務所を水口へ移転致度二付御許シ願

さあへ 尋るへ 事情一時一ツの里さとしよ いかなるもしつかり聞訳 是迄ながらくで一ツの里をはこび まだ一時あざやかならん わからん事情なにか一ツ里であろう じゆんへ しばらくの処といふ ながらくのあいだまでといふやない しばらくいつへしんじやはこぶ処 よくさとしくれにやならん なぜどうとあんしんならん処 日々であろう はやくといふハはやく事情なれど やいがはよいにたゝん おそいがおそいにたゝん たいてい尽すであろう中に なぜといふであるふ」(19ウ)

是一ツ聞わけてはづさんならんといふやない よくしんじやにさとして 事情ハ何時でもゆるすによつて じつくりしばらくといふ 萬事のさとしである 長い道すがらならん どんな道もあるとおもわにやならん いかなる里もある はやいがはよいにたゝん おそいがおそいにたゝん しばらくじつくり納めてくれにやならん ゆるさんといふやないで ゆるす事情なれど しばらくじつとしづめているが里といふ たがいへさとしやわんならん ゆるすといふのやで 十の道がおさまるといふのやで 是丈ヶさとすによつて 聞訳してくれるよう」(20オ)

(チ) 全廿六年拾貳月七日 山田太右衛門 四拾年(略。)

(コ) 全廿八年二月拾九日 亀山出張所 伊藤忠平

さあへ 尋る事情へ さあへ 一時ならんへ 処 尋る事情たずねバよいなる よぎなく事情 たいてい聞ている 一ツ身上納りないといふ よぎなき事情尋バ」(21オ)

パーツさとしよふ 一時どうでもない なれどよほどせまりたる よう聞わけ 身上せまる事情ハ心といふり 尽したりハほふぐにならん よう心のりによりて 一時よう聞わけ なぜなるとさらにもたず めんへ 事情のりにおさめて見よ

(注) 亀山の役員。布教に歩く。

(ゴ) 明治廿八年三月廿八日 近愛支教会長 吉岡栄蔵妻さと さあへ 尋る処への身上 里のゆるる処 一寸の里でハないかならずかるく思ふな 一ツ名のおりる里ハなかへの里であるほどに ふしんにかゝりて」(21ウ)

いる みまた事情どういふ物と思ふやろ 古き処 又かんなんくろう いんねんの道 年限事情 心の里 三ツツの里をだいとして よく聞訳 尽す里ハ受取へ 又身上たいそうである なれど内々心一ツ 心次第である よく此里をきかせおく

(注)『補遺』にあり。